

平成21年12月1日
(2009)
第103号
毎月発行
編集
公民館だより編集室
発行
西東京市公民館

西東京市

公民館だより

田無公民館 南町5-6-11 TEL 461-1170	柳沢公民館 柳沢1-15-1 TEL 464-8211
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 TEL 461-9825	ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 TEL 424-3011
谷戸公民館 谷戸町1-17-2 TEL 421-3855	保谷駅前公民館 東町3-14-30 TEL 421-1125

35年のあゆみ

田無公民館

あめんぼ青年教室

田無公民館の主催事業であるあめんぼ青年教室では、青年たちが主体的に地域社会の一員として生活が送れるよう、協調性や社会性を育くむことを目的に学習活動を行っています。今年度でその活動も開始してから35年になります。



あめんぼの始まり

あめんぼ青年教室の始まりは、昭和49年2月、障がいのある子をもつ親で組織されている「田無市をつなぐ親の会」から、地域における障がい者の学習の場を作ってほしいという要望書が教育委員会に提出されたことでした。その必要性が認められて、東京学芸大学の長浜功氏が講師となって、昭和49年4月から青年教室として活動を開始しました。当初、対象となる青年は11人、ボランティアスタッフは15人でした。

6月には、狭山青年の家で第一回合宿を行い、そこではゲームやフォークダンス、誕生会や学習会などを行いました。この合宿の際、青年たちの話し合いにより、学級の名前が「あめんぼ青年教室」と命名されました。

当時は、市民会館や狭山青年の家を利用して活動を行っていましたが、昭和50年の田無公民館開館を契機に、田無公民館の事業となりました。

昭和51年からは、現在と同じ毎月第1・2・3金曜日と第4日曜日に活動が定着していきました。現在のあめんぼ青年教室は、青年が36人、スタッフが10人です。スタッフは随時募集しています。

活動内容とその特色

あめんぼの活動計画は、毎年2月に、青年たちの代表とボランティアスタッフ、職員が一丸となって決めていきます。

活動内容は、料理、音楽、スポーツ、創作活動と多岐にわたっています。年間一回は合宿をし、年間二回はバスハイクを行っています。マンネリ化しないように、チャレンジ精神で積極的に取り組んでいく工夫をしています。

ここ数年は、ハンドベルやテニスボールという野球型のニュースポーツ、竹を割って飾り取りをする作業まで自分たちで行っての流しそつめん大会などにも挑戦しました。

あめんぼ青年教室の最大の特徴は、青年たちの自主性の尊重にあります。合宿、バスハイクの行き先、料理のメニュー等のアイデアはあくまでも青年たち自身の判断で決定していきます。

毎月の第一週目の活動では、青年たちの中から司会を選出して、前月活動の感想や反省を話し合います。また、その月の活動に必要な物や参加費などの項目についても、彼ら青年、職員、ボランティアスタッフ等全員で話し合って決めます。その記録や、お知らせ等の作成も、青年たちが毎月輪番で担当します。

地域のみなさんとの交流

あめんぼ青年教室以外の人たちとの交流をしようとして、さまざまな工夫をしています。

平成19年からは、田無公民館まつりに参加して、ハンドベルを発表しています。

平成20年度には、こもれば100円劇場にてハンドベルを発表したりしています。

今年の6月5日世界環境デーには、キャンドルナイトコンサートを実施しました。

5月24日に行われた田無公民館の廃油キャンドル作りの講座に青年たちも参加してコンサートのPRをしました。当日は、あめんぼと同じ金曜の夜間を主な活動日として田無公民館で活動している田無混声合唱団の皆さんの協力を得たり、ゲストの方に環境について考える第一歩となるお話を伺いました。

市民の方に、あめんぼ青年教室の存在を知ってもらおう良い機会となりました。

青年たちは

「皆に会えるのが楽しい。一週間が待ち遠しくて、毎日あればいいのにと思う」という声。そしてこれからも「テンカをせよ、みんなと仲良くしていきたい」「人数を増やして、もっともつとあめんぼを明るくしたい」と抱負を語ります。

サークル訪問

フラダンスサークル 「フラクラス・テイアレ」

谷戸公民館視聴覚室。10人ほどのメンバーが壁にはめ込まれた鏡に向かっています。ラジカセから洋楽ポップスが流れ始め、それに合わせて準備体操が始まります。講師の並木静子さんの合図で、かかとを交互に上げ、ついで脚を開いて腰を左右に躍らせます。

「上半身はまっすぐ」「と並木さん。

そして「ベリシック」という声で音楽はハワイアンに変わります。メンバーの動きもフラ特有のゆったりとした滑らかなものになります。

さらに曲はハワイアンの代表曲の一つ「月の夜は」に。この曲を合わせるのはいか月ぶりです。全員が踊りがそろって、一つの大きな波のようです。

「フラクラス・テイアレ」は昨年10月に発足しました。代表の駒野さんはもともとフラダンスを習っていました。地域の仲間を募って一緒に踊りたい、と、当初は3人からのスタートでした。

11月に体験教室を開催、そこに参加した人を中心に会員が増え、今は12人で活動しています。活動は木曜日の午前で、経験に応じて2グループに分かれています。

子連れの参加もOKで、この日も2人の小さな子どもが部屋の隅で一緒に遊んだり、踊りに拍手を送ったりしていました。「前からやってみて良かったです。少人数で、アットホームなところで練習したかったので」と話すのは渡辺さん。

3月に入会した村山さんも

「みなさんより後から入ったので緊張しましたが、フレンドリーでホッとしました」

着けているパウスカートも各自の手作りで、それもまた楽しい、と口をそろえます。

「最初はみんなもつと地味だったんですが、だんだん派手になってくるんですよ」

9月には練馬文化センターのフラ・フェスティバルで、他グループと一緒に踊りました。

並木さんは

「大切なのは気持ちよめること。そして、楽しく、明るく」と言います。

来年の谷戸まつりへの参加も考えています。

ただ今会員募集中です。

連絡先 駒野 ☎080・6600・6517



真夏の夜の流しそつめん大会で...

